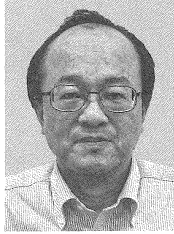


2024年10月28日付 鋼構造ジャーナル

第2211号 (第三種郵便物認可)

鋼構造ジャーナル

2024年(令和6年)10月28日 (8)



田川委員長



松野委員長



山本理事長

構か鉄骨 鋼骨製作の質疑と意見交換 鉄骨製作家ら70人参加 ファブや構造設計者ら70人参加 鋼構造セミナーを開催

広島県鉄骨工業会(理事長 山本泰徳・ステントス社長)と日本建築学会中国支部(支部長 杉田洋・広島工業大学教授)、日本建築構造技術者協会(略称・JSCA)中国支部(支部長 村瀬忠之・建築構造支援研究所代表)の3団体は12日、広島市中区のRCC文化センターで鋼構造セミナーをウェブ併用で開催。構造設計者やファブら約70

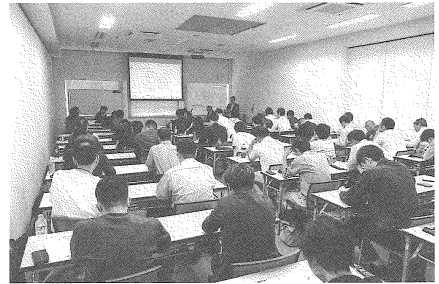
人が参加した。16回目の今回は「鉄骨製作における疑問点と要望」をテーマにパネルディスカッションを実施。JSCA中国支部・青年部と広島県鉄骨工業会・青年部が昨年開催した「鉄骨製作・施工に関する問題点の勉強会」で抽出した疑問や要望を題材にワーキンググループを合を重ね、その内容を発表した。

冒頭のあいさつで日本建築学会中国支部の松野一成・構造委員長(呉工業高等専門学校教授)は「このセミナーは鋼構造の発展に大きく寄与するとともに、学

術研究者と実務者の交流機会としても有意義である」とし、続いて、同鋼構造研究小委員会の田川浩委員長(広島大学大学院工学研究科教授)は「セミナーにはファブと構造設計者が鉄骨製作施工についての疑問点や要望について協議した熱意がこもっている」とした。

発表内容は①仕口関連②ブラケット・ノンブラケット形式③溶融亜鉛めっきの注意点④接合部、溶接関連の4項目。

仕口関連では、通しダイアフラムの段差や柱の絞り、屋根面の柱・梁接合部の注点などについて説明した。溶融亜鉛めっきでは、めっき抜きに必要なスカラップや孔の取り方について動



構造設計者やファブら約70人が参加

画を交えて紹介した。また、ファブ側の要望として、図面承認の遅延が工程全般に与える影響について工程図を示しながら解説し、早期の図面承認に対する理解を求めた。

最後に山本理事長は「構造設計者には鉄骨製作でも重要な施工図の早期の承認を意匠側に求めてほしい」と締めくくった。